

分野	括り	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月以降	備考			
				19	20	3	10	17	24	31	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中			下		
●原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減(2022~2024年度)	建屋内滞留水	【1~4号機 滞留水移送装置】 (実績) ・1~4号機滞留水移送装置運転 (予定) ・1~4号機滞留水移送装置運転	現 場 作 業	1~4号機滞留水移送装置設置 運転																								(継続運転)	2号機 原子炉建屋滞留水水位低下(T.P.-2800目標) 実施中 (2021/10/12~) 110/28時点水位 約T.P.-2200 ※監視パラメータ異常なし
		【α核種除去設備検討】	設 計 ・ 検 討																									(2022年2月 設計完了予定)	
		【1~4号機 T/B床面スラッジ等の回収方法検討】	設 計 ・ 検 討																									(2023年度 設計完了予定)	
		【滞留水処理 代替タンク設計】	設 計 ・ 検 討																									(2022年3月 設計完了予定)	
		【プロセス主建屋・高温冷却建屋ゼオライト土壌の検討】	設 計 ・ 検 討																									(2023年度上期 設計完了予定)	プロセス主建屋の地下階掃き出し実施 (2021/10~)
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	浄化設備	【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現 場 作 業	処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)																								(継続運転)	処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止 既設多核種除去設備 除去性能確認に係る実施計画変更申請 (2021/7/2、2021/10/14 補正) 増設多核種除去設備 前処理設備改造に係る実施計画変更申請 (2021/7/27)
		【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現 場 作 業	処理運転																								(継続運転)	サブドレン汲み上げ、運用開始 (2015.9.3~) 排水開始 (2015.9.14~)
		【5/6号機サブドレンの復旧】 (実績) サブドレン設備復旧工事着手 (2020/9/7~) ・設備設置：約1900m ² 約1900m ・中継タンク設置：2/2基 ・ポンプ・水位計設置：0/13箇所 ・試験(各設備設置後)：一式(未実施)	現 場 作 業																									(2022年3月 運転開始予定)	2021年2月18日 5・6号機サブドレン排水設備復旧の実施計画変更認可(原規発第2102184号)
		【地下水バイパス設備】 (実績) (予定) ・運転 ・運転	現 場 作 業	運転																								(継続運転)	
		【セシウム吸着装置】 【第二セシウム吸着装置】 【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現 場 作 業	処理運転																								(継続運転)	2021年1月29日 吸着塔の第二セシウム吸着装置及び第三セシウム吸着装置での再利用の実施計画変更認可(原規発第2101291号) 使用前検査予定月：2021年11月(第三セシウム吸着装置、2・3号) 2021年12月(第二セシウム吸着装置、2・3号)
陸側遮水壁	(実績・予定) ・未凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全環展開完了	現 場 作 業	維持管理運転(北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)																								(継続運転)		
フェーシング(陸側遮水壁内エリア)	【凍土壁内フェーシング(全6万m ²)】 (予定) 4号機タービン建屋東側	現 場 作 業	4号機タービン建屋東側																								(2022年2月 工事完了予定)	4号機タービン建屋東側：2021年4月7日開始	
3号機R/B燃料取出用カバー雨水対策(HPC)壁水位上昇対策	(実績) ・2021年8月6日 仮設雨樋設置完了 (予定) ・2022年2月 雨樋本設完了予定	現 場 作 業	雨水排水先変更(サブドレンNo.34付近の地表面に排水)																										

汚染水対策スケジュール (2/2)

分野	括り	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	9月		10月					11月			12月			1月			2月			3月			4月以降	備考			
				19	20	3	10	17	24	31	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
●タンク関連		H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	現場作業	モニタリング																								(継続実施)	
		タンク解体	(実績・予定) ・Eエリアフランジタンク解体工事 ・49基解体予定	現場作業	Eエリアフランジタンク解体工事																								(2022年4月 工事完了予定)*	2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について (実施計画変更認可) ※：残水回収中の2基を除く 実施計画変更申請中 2021年8月2日 福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画 変更認可申請書 (廃炉計画R3第68号)
		タンク設置	(実績・予定) ・G4北エリア溶接タンク設置工事 ・6基設置予定 ・G5エリア溶接タンク設置工事 ・17基設置予定	現場作業	G4北エリア溶接タンク設置工事												G5エリア溶接タンク設置工事												(2022年8月* 工事完了予定)	(2022年8月 工事完了予定)
●溜まり水対策		溜まり水対策	【構内溜まり水の除去】	現場作業																									(継続実施)	年1回、溜まり水の点検を実施
●自然災害対策		津波対策	○日本海津波対策 ・日本海津波対策防波堤設置 (実績・予定) 試験施工 本体構築工事	現場作業	現場調査・測量・試験施工本体構築工事																								(2024年3月 工事完了予定)	1-4号機側：2024年3月完了予定 現場着手：2021/06/21開始 テールアルメ工事：2021年9月14日作業開始 アッシュクリート打設：2021年10月15日作業開始
			○3.11津波対策 ・建屋開口部閉止 (実績) 閉止箇所数 123箇所/127箇所 (予定) 外部開口閉塞作業 継続実施	現場作業	【区分5】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B原専																								(2022年3月 工事完了予定)	【区分1②】1~3T/B等2019年3月、全67箇所完了 【区分3】2, 3R/B外部のハッチ等 (2019年3月~2020年3月、全20箇所完了) 【区分4】1~3R/B原専等 (2019年9月~2020年11月、全16箇所完了) 【区分5】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B (2020年3月~2022年3月、20箇所/24箇所完了)
		○3.11津波対策 ・メガフロート移設【10/20時点】 (実績) 着床マウンド造成:100%、パラスト水処理:100%、 内部除染作業:100% メガフロート移設・仮着床:100% 内部充填作業:100% 護岸ブロック製造:100% 据付:100% 裏込工:100% ブロック基礎設置:100% 上部盛土工:100% 上部コンクリート工:80% 港域ヤード整備:1%	現場作業	護岸工事																								(2022年2月 工事完了予定)	着床マウンド造成：2019年5月20日開始、2020年2月7日完了 パラスト水処理：2019年5月28日開始、2020年2月20日完了 内部除染：2019年7月16日開始、2020年2月26日完了 メガフロート移設・仮着床：2020年3月4日完了 内部充填：2020年4月3日開始、8月3日完了 護岸ブロック据付：2020年10月2日開始、2021年2月4日完了 裏込工：2021年1月16日開始、2021年3月24日完了 ブロック基礎設置：2021年3月25日開始、2021年6月8日完了 上部盛土工：2021年4月19日開始、2021年8月3日完了 上部コンクリート工：2021年6月16日開始、2021年10月29日完了目標 港域ヤード整備：2021年10月18日開始、2022年2月26日目標 ※2月13日の地震による影響を福島県と協議し、追加申請を実施予定。	
豪雨対策	○豪雨対策 ・D排水路新設 (実績) (10/20日時点) 準備工事 完了 立坑構築工(両岸立坑部) 75% 立坑構築工(上流側到達立坑部) 80% 立坑構築工(下流側到達立坑部) 25% 立坑構築工(小口径推進部) 40% トンネル工(下流側機械掘進工) 45% 推進管据付(下流側) 71/284本 (約170m/約690m)	現場作業	立坑構築工事(両岸立坑部、下流側到達立坑部、上流側到達立坑部、小口径推進部)												トンネル工事(下流側~2022.1)												(2022年8月 工事完了予定)	準備工事(両岸立坑ヤード整備)：2021年2月25日開始 両岸立坑部：2021/03/06施工開始 下流側到達立坑部：2021/03/22準備開始、7月16日施工開始 上流側到達立坑部：2021/04/05施工開始 トンネル工事：2021/07/29開始、2021/09/06掘進作業開始、 2021/09/16初期掘進開始、2021/9/28本掘進開始		

水処理設備の運転状況, 運転計画

(2021年11月5日～2021年12月2日)

2021年11月19日
東京電力ホールディングス株式会社

多核種除去設備

	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	20(土)	21(日)	22(月)	23(火)	24(水)	25(木)	26(金)	27(土)	28(日)	29(月)	30(火)	1(水)	2(木)		
A	点検停止														←															
B	点検停止						←						点検停止			←						点検停止								
C	計画停止		←				点検停止		←				点検停止			←												点検停止		

増設多核種除去設備

	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	20(土)	21(日)	22(月)	23(火)	24(水)	25(木)	26(金)	27(土)	28(日)	29(月)	30(火)	1(水)	2(木)
A	←			点検停止				←				点検停止																
B	点検停止																								←			
C	点検停止																											

高性能多核種除去設備

	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	20(土)	21(日)	22(月)	23(火)	24(水)	25(木)	26(金)	27(土)	28(日)	29(月)	30(火)	1(水)	2(木)
A	計画停止					←		計画停止																			点検停止	

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)	19(金)	20(土)	21(日)	22(月)	23(火)	24(水)	25(木)	26(金)	27(土)	28(日)	29(月)	30(火)	1(水)	2(木)					
SARRY	←				計画停止											←																	
SARRY2	計画停止					←										計画停止			←										計画停止				
KURION	計画停止(滞留水の状況に応じて運転を計画, 実施)																																

※ 現場状況を踏まえて運転するため, 計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について
(2021年11月5日～2021年11月18日)

2021年11月19日
東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位				タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位			
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス 主建屋	高温焼却炉 建屋	サイトバンカ 建屋
			HPCI室	トーラス室												
11月5日	-2039	-2319	-2026	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-936	169	2705
11月6日	-2040	-2299	-2029	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-998	169	2704
11月7日	-2045	-2291	-2029	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1066	169	2704
11月8日	-2050	-2282	-2031	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1135	168	2704
11月9日	-2051	-2326	-2033	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1116	168	2704
11月10日	-2047	-2427	-2014	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-963	167	2704
11月11日	-2055	-2385	-2010	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-848	175	2705
11月12日	-2030	-2401	-2012	-2045	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-818	182	2704
11月13日	-2033	-2383	-2014	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-828	180	2704
11月14日	-2050	-2382	-2015	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-848	180	2704
11月15日	-2040	-2376	-2017	-2034	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-876	183	2704
11月16日	-2045	-2382	-2019	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-842	183	2704
11月17日	-2043	-2380	-2021	-2045	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-762	180	2704
11月18日	-2040	-2383	-2022	-2022	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-700	181	2704
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796	-4796	-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	-

備考欄

- ※ T.P.表記 (単位:mm)
- ※ 5時時点の水位
- ※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了(2017年3月)
- ※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2019年3月)
- ※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)
- ※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 3号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 4号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 2号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 3号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ 4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)
- ※ サイトバンカ建屋は過去に滞留水を誤って移送したことがあり、排水したものの現状も低レベルの汚染が残っていることから、水位を監視している。
なお、当該建屋内の水は1～4号機建屋及び集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋)内の建屋滞留水と切り離されており、放射能濃度も低いことから、建屋滞留水ではない。

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 12}	管理方法		主要 核種
							実施内容 ^{※9}	頻度	
Ⅲ ^{※13} 第1編 39条 第2編 87条の2	瓦礫類	・地震、津波、水素爆発により飛散した瓦礫 ・フォールアウトにより汚染した設備・資機材で廃棄する物（建屋、制御盤、廃車両等） ・設備の点検・工事により発生する交換品等（ポンプ、バルブ、配管、フランジタンク等） ・設備運転に伴い発生する消耗品等（空調フィルタ等） ・工事等のため構内に持ち込んだ消耗品（梱包材、型枠、セメント用空袋等） ・回収した土壌	屋外	・屋外集積（～0.1mSv/h）	226,600 m ³ [+700 m ³]	278,000 m ³ (299,000 m ³)	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・巡視を行い、容器の転倒、落下や養生シートに破れがないこと、その他異常が無いことを確認	—	Cs-137 Cs-134 等 ^{※7}
				・シート養生（～1mSv/h）	40,900 m ³ [0 m ³]	77,400 m ³ (77,400 m ³)		週1回	
				・覆土式一時保管施設、容器収納（1mSv/h～30mSv/h）	17,900 m ³ [微増 m ³]	18,500 m ³ (18,500 m ³)		週1回	
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納	25,700 m ³ [+100 m ³]	39,600 m ³ (64,700 m ³)	・空間線量率を測定し表示	6ヶ月に1回 ^{※2}	
				瓦礫類の合計	311,200 m ³ [+800 m ³]	413,400 m ³ (459,500 m ³)	・空气中的放射性物質濃度を測定	週1回	
	使用済保護衣等	・タイバック ・下着類 ・ゴム手袋 ・その他保護衣、保護具	屋外	・容器収納	31,500 m ³ [-1,200 m ³]	52,500 m ³ (58,700 m ³)	・槽内の溜まり水の有無を確認（覆土式一時保管施設）	週1回 ^{※3}	
			建屋	・袋詰め			・煙、水蒸気、濁り水（黒・茶色）、空気の揺らぎが発生していないこと（屋外集積の伐採木）	週1回 ^{※3}	
	伐採木	・枝葉根	屋外	・伐採木一時保管槽	37,300 m ³ [0 m ³]	41,600 m ³	・伐採木一時保管槽における温度監視	週1回 ^{※3}	
				・屋外集積	800 m ³ [微増 m ³]	6,000 m ³	・保管量を確認し、保管容量が確保されていることを確認	月1回	
		・幹根	102,700 m ³ [0 m ³]	128,000 m ³					
		—	伐採木の合計	140,800 m ³ [微増 m ³]	175,600 m ³ (175,600 m ³)	—	—		
	Ⅲ 第1編 40条 第2編 87条の3	水処理二次廃棄物（水処理により放射性物質を濃縮した廃棄物）	凝集沈殿物	廃スラッジ [△] 貯蔵施設	・造粒固化体貯槽【除染装置】	441 m ³ [-1 m ³]	700 m ³	・免震重要棟にて液位を監視し、漏えいの有無を監視	
使用済セシウム吸着塔一時保管施設				・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約13mSv/h）	3,885 本	4,192 本	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	
			・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約23mSv/h）	[+21 本]		—	—		
			・吸着塔【第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置、高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約1.2mSv/h）	380 本 [+2 本]	584 本	・巡視を行い、コンクリート製ボックスカルバート等に異常が無いことを確認	—		
			・処理カラム【多核種除去設備】（最大約0.2mSv/h）			・貯蔵量を確認し、貯蔵可能容量が確保されていることを確認	週1回		
			・吸着塔【セシウム吸着装置、モバイル式処理装置、モバイル型Sr除去装置、第二モバイル型Sr除去装置、サブドレン他浄化装置、高性能多核種除去設備検証試験装置】（最大約250mSv/h）	974 本 [0 本]	1,596 本				
			フィルタ	・容器収納【モバイル型Sr除去装置】（最大約0.5mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—	
・容器収納【高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約0.5mSv/h）									
固体廃棄物貯蔵庫			・容器収納【サブドレン他浄化装置】			瓦礫類と同様	—		
			・容器収納【雨水処理設備等】（1mSv/h未満）						
・RO装置のフィルタ類	屋外	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む	瓦礫類と同様	—				
樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）	瓦礫類に含む		瓦礫類と同様	—			
		・容器収納【雨水処理設備等】（最大2mSv/h）							

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 11, 12}	管理方法		主要 核種	
							実施内容 ^{※9}	頻度		
Ⅲ 第1編 38条 第2編 87条	放射性固 体廃棄物 等	・震災前に発生した放射性固体廃棄物	固体廃棄 物貯蔵庫	・ドラム缶収納	ドラム缶 175,661 本	ドラム缶 (約318,500 本相当)	・巡視による保管状況の確認及び保管量 の確認	月1回	Co-60 等	
				・その他	ドラム缶 10,155 本					
		・震災後に発生した放射性固体廃棄物 (焼却灰等)	・ドラム缶収納	2,507 本 [+48 本]						
		・使用済制御棒等	サイトバ ンカ	・水中保管	12,125 本 193 m ³ ^{※4}	—		・事故前の保管量の推定値により確認		3ヶ月に1 回
								・プール水位の確認		月1回
		・イオン交換樹脂、造粒固化体	タンク等	・タンク等に貯蔵	3,543 m ³ ^{※5}	—		・貯蔵量の確認 ^{※8}		3ヶ月に1 回
・貯蔵状況の確認 ^{※8}	タンクに より異な る									
・使用済制御棒等	使用済燃 料プール	・水中貯蔵	11,422 本 ^{※6}	—	・使用済燃料共用プールの巡視	月1回				
					・使用済燃料共用プールの貯蔵量の確認	3ヶ月に1 回				
— ^{※10}	瓦礫等 ^{※13}	・回収した土壌	—	20,600 m ³ [+100 m ³]	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	Cs-134 Cs-137 等			
		・回収した土壌以外の瓦礫等	屋外	—				64,000 m ³ [+3,000 m ³]		
			建屋	—				1,000 m ³ [微減 m ³]		
	水処理二 次廃棄物	・樹脂、ゼオライト、RO膜等	—	200 m ³ [0 m ³]				Cs-137 Cs-134 Sr-90等		
仮設集積の合計			—	85,800 m ³ [+3,100 m ³]						

※1 瓦礫類、使用済保護衣等、伐採木、仮設集積物、震災後に発生した放射性固体廃棄物（焼却灰等）は2021年9月30日現在、水処理二次廃棄物は2021年11月4日現在の保管量及び保管容量である。尚、瓦礫類、使用済保護衣等及び伐採木の下段に（ ）で記載している保管容量は、実施計画（2021年9月22日認可）に記載している保管容量である。

※2 屋外集積及びシート養生の瓦礫類、使用済保護衣等、並びに屋外集積の伐採木は、3ヶ月に1回。

※3 6月～9月は、1週間に3回。

※4 2021年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：1,167本、チャンネルボックス：9,818本、ヒューエルサポート：3本、中性子検出器：1,137本、その他（シュラウド切断片等）：193m³。

※5 2021年3月末時点の保管量。内訳は、イオン交換樹脂：2,395m³、造粒固化体：1,148m³。

※6 2021年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：281本、チャンネルボックス：10,539本、ポイズンカーテン：173本、ヒューエルサポート：54本、中性子検出器：375本。

※7 廃棄物の処理・処分に必要となる、廃棄物の性状把握のため、汚染水、瓦礫類、伐採木及び立木について、放射能濃度分析を実施しており、今後も継続する。分析した試料の中には、C-14（半減期：約5.7×10³年）、Ni-63（半減期：約1.0×10²年）、Se-79（半減期：約1.1×10⁶年）、Tc-99（半減期：約2.1×10⁵年）、I-129（半減期：約1.6×10⁷年）等が検出されているものがある。

※8 1～4号機廃棄物処理建屋等の水没や高線量の理由によりアクセスできないタンクについてはこの限りではない。

※9 アンダーラインの実施内容は、実施計画（2021年9月22日認可）に未記載。

※10 仮設集積しているのは、伐採木、土壌、水処理二次廃棄物等であり、QJ-54・1F-R5-002 瓦礫等管理要領に基づき、ロープや柵等の区画を行い、立ち入りを制限する標識を掲示する措置を講じている。

※11 []は、前回報告値との差を示している。

※12 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。

※13 瓦礫等の記載については、廃棄物管理の適正化の検討を踏まえて、今後見直す。

ガレキの保管量の現状※1, 2, 3

保管形態	受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア 名称	保管容量※7	保管量	前回比	保管容量合計※7	保管量合計	2021年度末 想定保管量※4	
屋外集積 (~0.1mSv/h)	≦0.001	AA	36,400 m ³	18,900 m ³	+600 m ³	278,000 m ³	226,000 m ³	262,200 m ³	
		A2	9,500 m ³	— m ³ ※5	— m ³ ※5				
	≦0.005	J	8,000 m ³	6,200 m ³	0 m ³				
		≦0.01	A1	4,300 m ³	— m ³ ※5				— m ³ ※5
			B	5,300 m ³	5,300 m ³				0 m ³
	≦0.025	C	31,000 m ³	31,000 m ³	0 m ³				
		C	35,000 m ³	34,800 m ³	+100 m ³				
	≦0.028	U	800 m ³	700 m ³	0 m ³				
	≦0.1	C	1,000 m ³	1,000 m ³	0 m ³				
		F2	7,500 m ³	6,400 m ³	0 m ³				
		N	10,000 m ³	9,600 m ³	0 m ³				
		O	51,400 m ³	44,000 m ³	0 m ³				
		P1	64,000 m ³	62,600 m ³	0 m ³				
		V	6,000 m ³	6,000 m ³	0 m ³				
d		1,200 m ³	0 m ³	— m ³					
e	6,700 m ³	0 m ³	— m ³						
シート養生 (~1mSv/h)	≦0.3	D	4,500 m ³	2,600 m ³	0 m ³	77,400 m ³	40,900 m ³	73,700 m ³	
		E1	16,000 m ³	14,600 m ³	0 m ³				
	≦1	P2	9,000 m ³	5,900 m ³	0 m ³				
		W1	23,000 m ³	9,900 m ³	0 m ³				
		W2	6,300 m ³	0 m ³	0 m ³				
		X	12,200 m ³	7,900 m ³	0 m ³				
		m	3,100 m ³	0 m ³	— m ³				
		n	3,300 m ³	0 m ³	— m ³				
覆土式一時保管施設、容器収納 (1mSv/h~30mSv/h)	≦10	F1	700 m ³	600 m ³	0 m ³	18,500 m ³	17,900 m ³	33,000 m ³	
		E2	1,800 m ³	1,200 m ³	微増 m ³				
	≦30	L	16,000 m ³	16,000 m ³	0 m ³				

仮設集積の管理状況※1, 2

分類	場所	保管容量	保管量	前回比
仮設集積※6	①	3,000 m ³	2,000 m ³	— m ³
	②	3,000 m ³	3,000 m ³	— m ³
	③	2,000 m ³	2,000 m ³	— m ³
	④	12,000 m ³	6,500 m ³	— m ³
	⑤	14,000 m ³	13,800 m ³	— m ³
	⑥	4,000 m ³	1,800 m ³	— m ³
	⑦	9,000 m ³	3,800 m ³	— m ³
	⑧	4,500 m ³	3,500 m ³	— m ³
	⑨	1,500 m ³	1,500 m ³	— m ³
	⑩	1,600 m ³	600 m ³	— m ³
	⑪	2,400 m ³	1,200 m ³	— m ³
	⑫	1,800 m ³	1,800 m ³	— m ³
	⑬	2,200 m ³	1,200 m ³	— m ³
	⑭	2,200 m ³	2,200 m ³	— m ³
	⑮	2,000 m ³	2,000 m ³	— m ³
	⑯	5,600 m ³	2,800 m ³	— m ³
	⑰	7,200 m ³	7,200 m ³	— m ³

- ※1 瓦礫類、仮設集積物は2021年9月30日現在の保管量及び保管容量である。保管容量は運用上の上限を示している。
- ※2 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。
- ※3 各受入目安線量率において、固体廃棄物貯蔵庫の保管量は除いて記載。
- ※4 瓦礫類の想定保管量は、実施計画（2021年9月22日認可）の予測値を示している。
- ※5 エリアA1及びA2は低線量エリアとした（2020年1月6日認可）が、移行期間のため「—」と記載。
- ※6 保管容量が1,000m³以上の仮設集積場所について記載。
- ※7 瓦礫等の記載については、廃棄物管理の適正化の検討を踏まえて、今後見直す。



提供：日本スペースイメージング(株)2021.4.8撮影
Product(C)[2021] DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

- ・陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視しておりますが、10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。
- ・地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はないと評価しております。
- ・K排水路では、陸側遮水壁との交差部に、凍結による膨張対策として補強箇所が存在します。当該補強箇所内において、クラックなどが発生し、凍結範囲に水が流出している可能性があるかと推定しております。

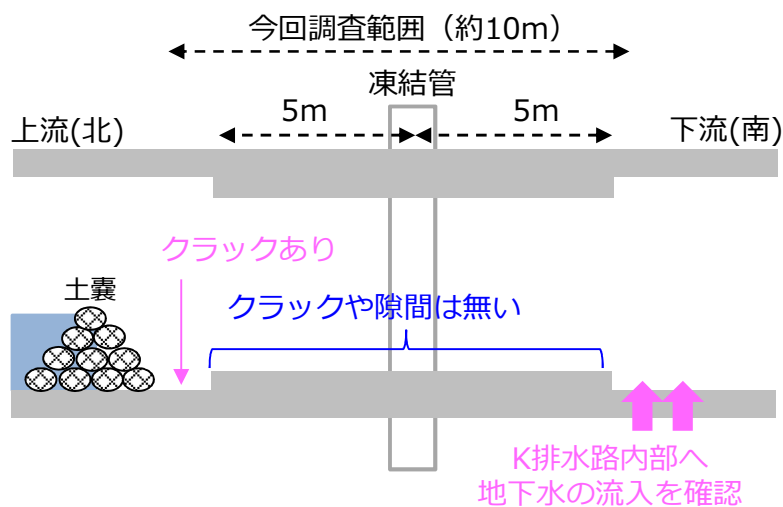
<[2021年10月28日お知らせ済み](#)>

- ・11月第1週に当該補強箇所区間をドライアップし、目視による詳細調査、クラック等の補修を実施いたします。

<[2021年11月1日お知らせ済み](#)>

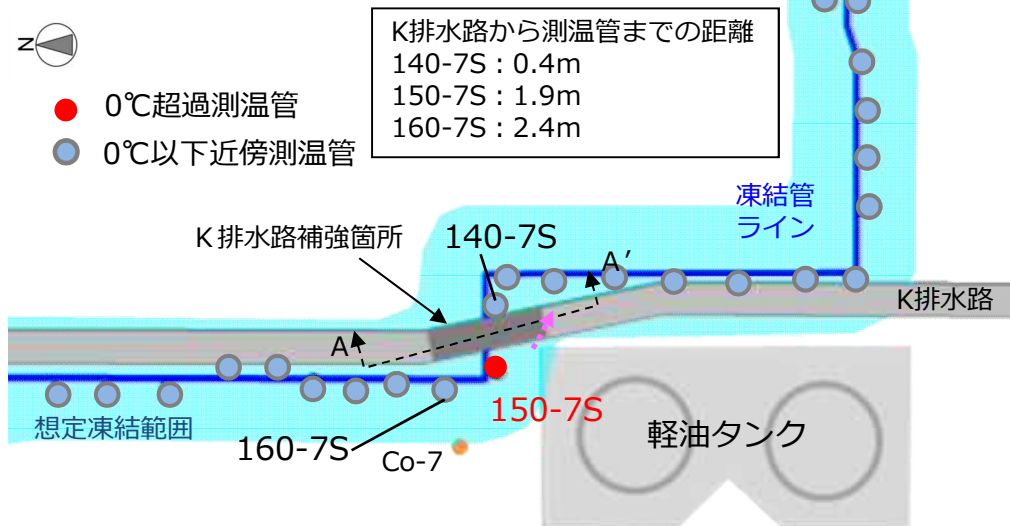
目視による詳細調査結果

- 11月1日よりドライアップ作業を開始し、目視による詳細調査については、11月2日より開始しております。
- 11月2日～11月3日にかけて、K排水路補強部付近を調査した結果、以下の状況が確認されました。
 - ①補強部上流側にクラック有り（長さ：約1.0m、幅：5mm）
 - ②補強部と凍結管貫通部にクラック、隙間は無し
 - ③補強部下流側に地下水の流入を2箇所確認
- 今後、測温管150-7S近傍の凍結管ライン外側を掘削し、地下の状況を確認いたします。併せて、陸側遮水壁内側を掘削し、同遮水壁が健全であることを確認してまいります



A-A'断面概略図

※当該深度における陸側遮水壁の想定厚さは10m以上



K排水路補強部平面概略図



K排水路内部ドライアップ区間 クラック調査結果



クラック拡大写真

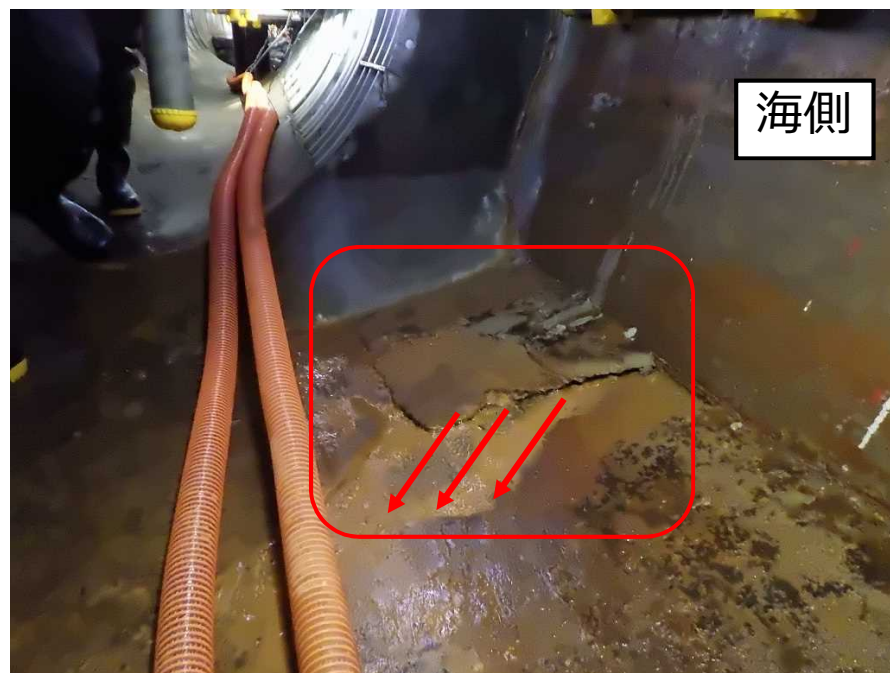
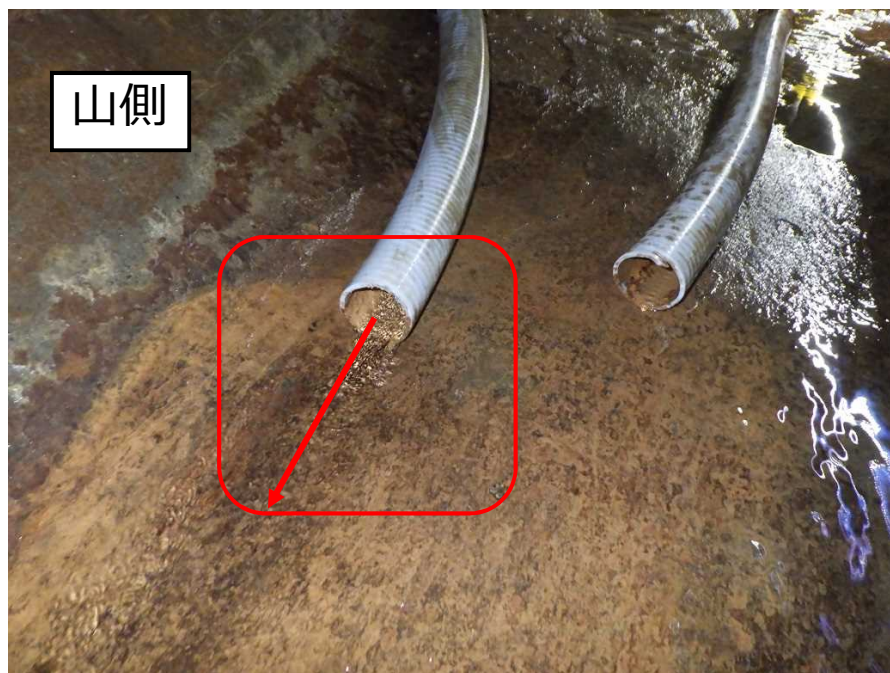
5-4. K排水路内部 補強部 下流側の調査

写真はK排水路下流から全景撮影



導水パイプ 状況

湧水箇所 状況

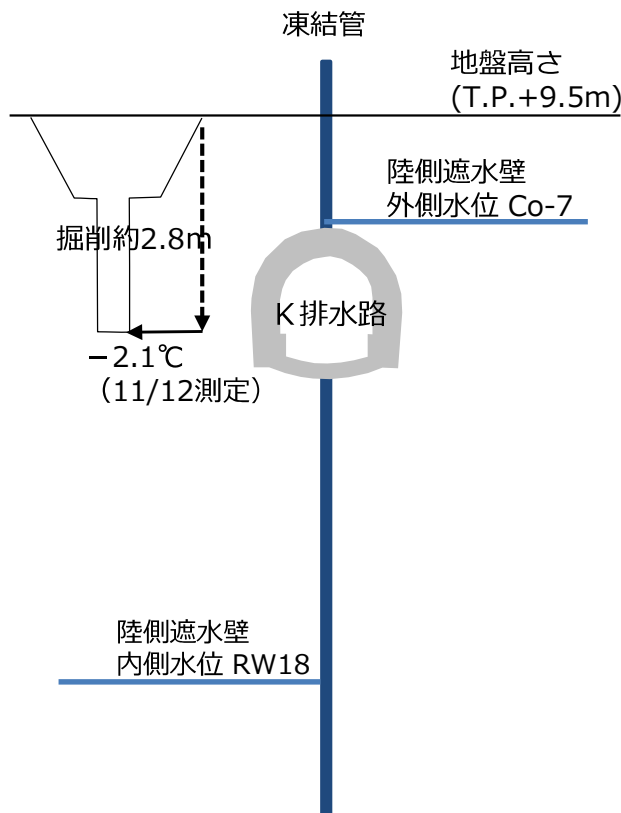
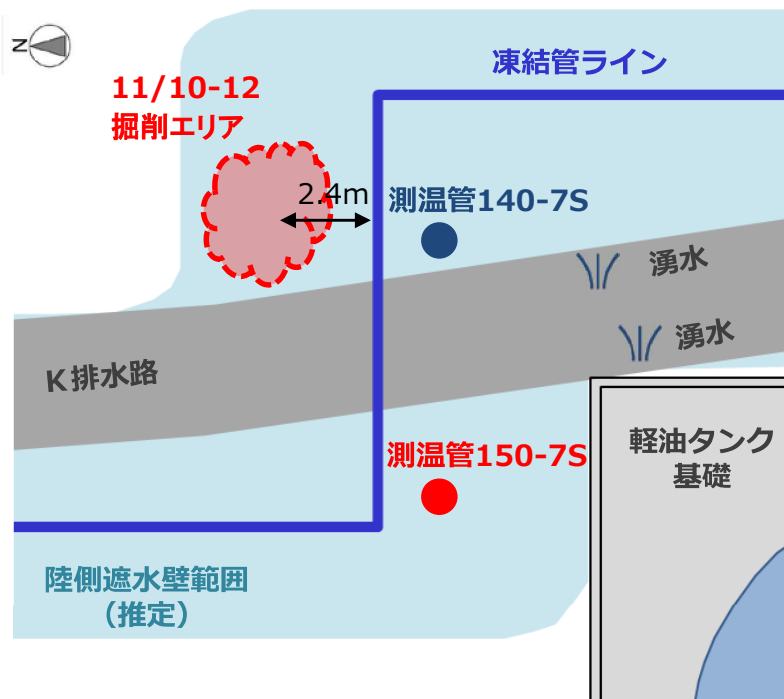


- 陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視しておりますが、10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。
- 地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はないと評価しております。 <[2021年10月28日 お知らせ済み](#)>
- 11月1日からK排水路の補強箇所区間をドライアップし、11月2日～3日にかけて、K排水路補強部付近を調査した結果、補強部上流側にクラック有り（長さ：約1.0m、幅：5mm）および補強部下流側に地下水の流入を2箇所確認しました。
- 今後、測温管150-7S近傍の凍結管ライン外側および陸側遮水壁内側を掘削し、地盤の調査や同遮水壁が健全であることを確認してまいります。
<[2021年11月1,4日 お知らせ済み](#)>
- 本調査については、陸側遮水壁の地盤の状態を確認するために陸側遮水壁内側から行います。なお、陸側遮水壁内側は地下水位が低く、内側表層部は固結度が低い可能性があります。地盤の性状や地下水位の有無、または地中温度の計測等で評価してまいります。その調査手法の妥当性を確認した後に、陸側遮水壁外側の調査を行う予定としております。

<[2021年11月10日 お知らせ済み](#)>

- 11月10日から11月12日にかけて実施した陸側遮水壁内側の地盤の掘削調査の結果、深度-2.7m付近より深部では地中温度が0℃以下であること、および、掘削調査範囲では地下水が無いことを確認しました。この調査結果に加え、内外水位差が十分に確保されていること、サブドレンの汲み上げトレンドに変化がないことから、陸側遮水壁は正常に機能していると評価しております。
- 本日（11月15日）から11月19日にかけて、陸側遮水壁外側の地盤、地下水の状況を確認するため、陸側遮水壁外側の掘削調査を実施します。
- また、11月13日朝、測定温度の定例確認において、測温管150-7SのT.P.+ 4.5m～5.5m、T.P.+ 5.5m～6.5m、6.5m～7.5mの測定値に温度上昇があることを確認しました（5スライド参照）。その後、有意な温度変化はありません。
- 温度上昇は、測温管150-7Sのみで、周辺測温管140-7S、160-7Sには変化はありません。なお、内外水位差が十分に確保されていること、サブドレンの汲み上げトレンドに変化がないことから、遮水性は確保していると評価しております。

- 掘削深さ-2.7m付近より深部にて地中温度が0℃以下であることを確認しました。
- 陸側遮水壁内側エリアの掘削範囲において地下水は確認されませんでした。
- この調査結果に加え、内外水位差が十分に確保されていること、サブドレンの汲み上げトレンドに変化ないことから、陸側遮水壁は正常に機能していると評価しております。



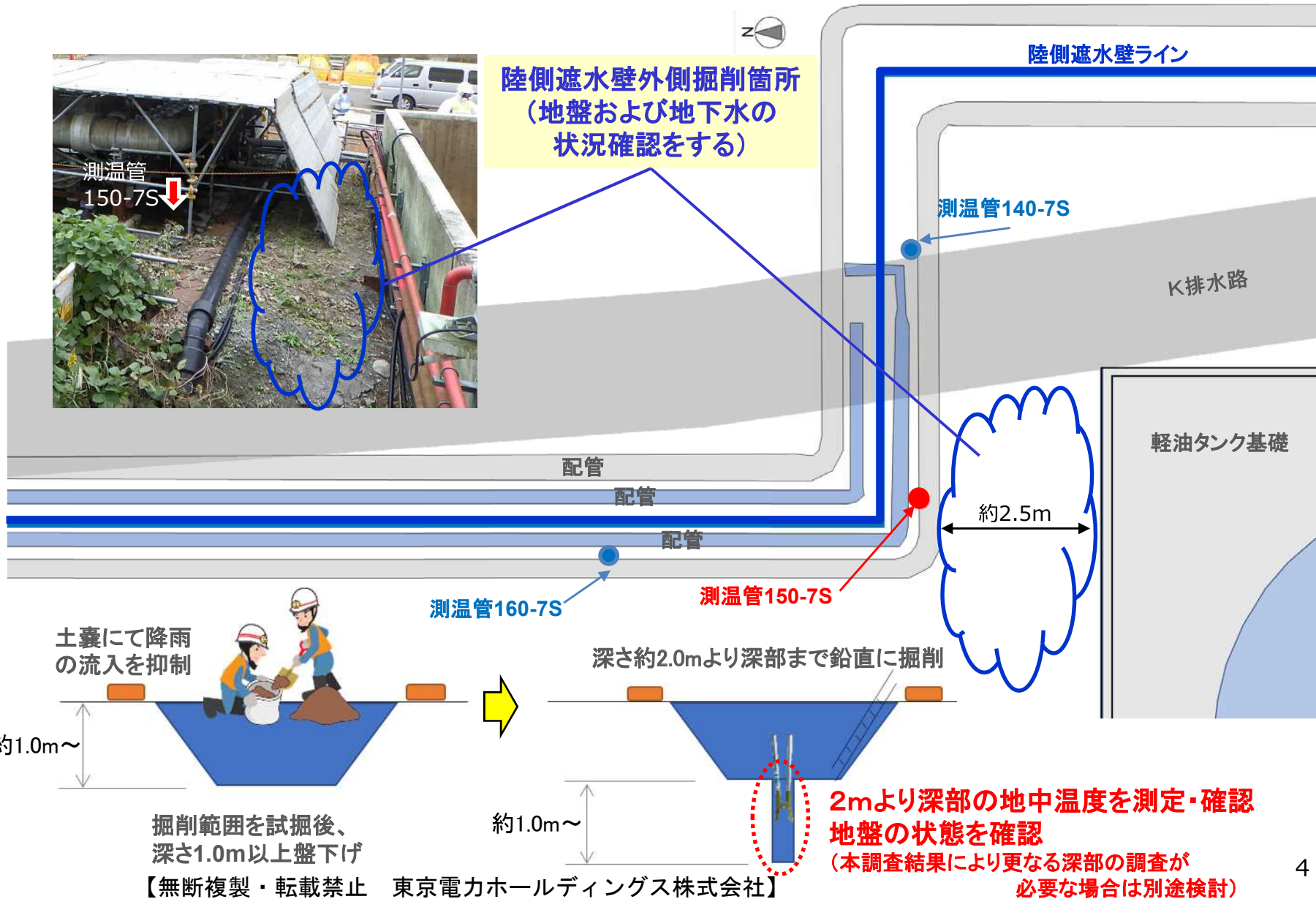
ダブルスコップにより掘削した土
G.L.-2.6m付近

掘削深さ (m)	T. P (m)	地中温度 (°C)
G.L.+0.00	T.P.+9.00	18
G.L.-1.50	T.P.+7.50	6.1
G.L.-1.80	T.P.+7.20	5.1
G.L.-2.55	T.P.+6.45	0.3
G.L.-2.70	T.P.+6.30	-0.9
G.L.-2.80	T.P.+6.20	-1.6
G.L.-2.84	T.P.+6.16	-2.1

地中温度は、温度計を掘削箇所にて埋設して計測



陸側遮水壁外側掘削箇所
(地盤および地下水の
状況確認をする)



土嚢にて降雨の流入を抑制

約1.0m~

掘削範囲を試掘後、深さ1.0m以上盤下げ

【無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社】

深さ約2.0mより深部まで鉛直に掘削

約1.0m~

2mより深部の地中温度を測定・確認
地盤の状態を確認
(本調査結果により更なる深部の調査が必要な場合は別途検討)

参考) 測温管150-7 S 及び周辺測温管の温度経時変化 (表層抜粋)

